

同志社大学

2013年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2014年 2月 28日提出

所 属	職 名	氏 名
経済学部	准教授	横井 和彦
研 究 題 目	中国における「国進民退」と都市「単位」社会の変容 ——民主化と効率化が両立する「社会主義市場経済」社会とは——	
研 究 成 果 の 概 要	<p>科学研究費補助金（基盤研究〔C〕 2012～2015 年度，研究課題：中国における「国進民退」と都市「単位」社会の変容，研究課題番号：24510360）による調査・研究をふまえて，「中国における『改革・開放』の再検討——『国進民退』の評価にむけて——」『経済学論叢』（同志社大学経済学会）第 65 巻第 4 号、2014 年 3 月を執筆した。</p> <p>まず中国の経済発展が，1978 年から鄧小平によって進められた「改革・開放」の成果であることに異論がないにもかかわらず，その結果である現状，すなわち「国進民退」の評価については，議論が大きく分かれていることに注目した。その 1 つは先進資本主義国とは異なる発展の道であり，ほかの発展途上国にも適用可能な開発モデルとして高く評価する，「北京コンセンサス」や「中国模式（モデル）」とよばれる議論であり，もう 1 つは政府が政治的利益の追求によって産業の重要な部分を支配している「国家資本主義」であって先進資本主義国とは相いれない特異な体制と断じる議論である。</p> <p>そこで「改革・開放」を象徴する対外開放と国有企業改革を再検討することをつうじて，「国進民退」がむしろ「改革・開放」がめざしたものであることを明らかにしたうえで，とりわけ「国家資本主義」論における「改革・開放」の歴史と中国経済史上の「国家資本主義」についての理解を検討する必要があることを示唆した。</p>	